

令和5年 第5回教育委員会（会議録）

令和5年5月17日（水）

午前9時30分～

坂祝町中央公民館 会議室

日程第1 開会

※教育長が開会を宣言する。

出席委員確認

	教育委員	金武 千秋
		古田 博英
		兼松 悟
		原口 かおり
	教育長	三品 芳則
教育委員会事務局	教育課長	堀部 芳章
	こども課長	岩井 正義
	教育課主幹	若泉 貴弘

日程第2 前回教育委員会の確認

※教育課長が資料に基づいて報告をする。

日程第3 教育長、教育委員報告事項

教育長 5月2日、市町村教育委員会連合会定期総会に金武教育委員様と出席をいたしました。県教委の香田義務教育総括官の話の中には、新型コロナウイルスの対応については、今後基本的な感染症対策を継続することと、その時々
の状況に応じた対応が必要であるとの話がありました。もう一つは、県の教育委員会の組織改編に関わって話がありました。8課200名が1フロア
で執務をされています。組織改編では、義務教育課と広報教育課の大きく2つに
変更されました。その目的は、指導面と人事面を推進するためとお聞き
しました。一人一人を真に大切に教育ということで、35人学級の実現、
教員の人材不足に関わっては、教員の魅力に関わって、採用試験の工夫
と奨学金の補助であるとか、定年延長が始まるので、その再任用制度との併
用で教員を確保していきたいという話をされました。5月10日、第1回臨
時議会がありました。その中で教育委員会に関わるものとして、坂祝町の将
来の学校の在り方検討委員会の設置条例を可決していただきました。6月
の中下旬をめどに、そこから3回から5回程の検討委員会を開催する予定
です。教育課程と小中学校の建設に向けての方向性を諮問して、最終の会に
は、答申をいただく予定です。その内容については、ホームページ、議会、
教育委員会等、いろいろな場で報告させていただきますのでよろしく願
いします。3つ目につきましては、5月16日、5月17日、全国の町村教
育長会に出席をしました。定期総会並びに研究大会と文部科学省の初等中
等局の教育企画課長の行政説明が約1日半の日程でありました。中でも、記

念講演として、「サイバニクスで未来を拓く」と題し、山海嘉之氏の話を読みました。サイバー空間、つまり仮想空間とフィジカル空間を融合したテクノロジーの共生の研究をしておられました。研究の一つとして、高齢化が進んで、一人では自力で立てない、歩けないような方に、補助具をつけて立てるようになる、脳神経科学と連動させて、脳の指令を瞬時に補助具に指令を送って立ちたいなあと思った瞬間に既に立っている、つまり立とうとしていることに対して、補助器具で力を与えるのではなく、神経の指令をそこに伝えて、瞬時に立てるようにしている。それを使ってトレーニングをすると10日から1カ月後には自力で歩けるようになる。すごい研究をされていると思いました。日本では、厚生労働省等の縦割り行政で、横断的に認可されておらずハードルが高いのですが、山海先生の研究をドイツ、東南アジア等、20カ国以上の諸外国では認可されて、研究所を作って進めて行こうとしていることが日本国外では進んでいます。その方が、講演で話された教育に関わることでいうと、今までは追いつけ追い越せといった人材、つまり学習速度が速くて、先人や他者の行いを素早く取り入れて追従していくような、そんな人材がこれまでの日本の教育では、高度経済成長期からずっと詰め込み教育のような形で、子どもたちを育ててきたのですが、これからはそうではなくて、人や社会のために、何をなすべきか、行動を牽引していくような人材を育てていくようなことが大切ではないかと、未来のビジョンをもって自ら、企画、マネジメント、開拓できる人、つまり、人や社会のことを第一に考え、未来を開拓していくような推進者を育てていくことが大切、人のものまね、いわゆる模倣をして成果を上げていくのではなく、自ら発想し創り上げていくような人材を創っていかないと日本の未来は危ないという話をされたのが印象的でした。

- 古田教育委員 教育長 この方は、医者なのですか。それとも技術者なのですか。
起業された方で、経営者で社長であり、筑波大学の教授であり、役所の審議会の第3者委員会の委員をたくさん兼ねておられます。
- 金武教育委員 教育長からの話もあった、連合会に私も参加をしました。横山会長のあいっつの中で、いのちとは学びであり、子どもは地域の宝なので、学校の在り方を見直して、先生は生き生きとしなければならないという話がありました。講話では、上田研究官の話がありまして、先程の推進者を育てるといった感じでしたが、これからの子どもたちは自分で考えて、主体的に行動して、それを振り返って反省して、社会に参加をして、社会を変えていく力を備えられる教育が必要だという話がありました。そうするためには、小学校や中学校で、教員が質を高くしなければならないという話がありました。教員の質を高くするためには、人材育成の場を用意して、今までの研修とは違った研修の仕方をしなければならない。学校と教育委員会が成果と課題を共有できるような場を作れるような研修にしていかななくてはならない。そうすることで、先生たちも生き生きとして働けるのではないかと。教員の質を高くしなければならないのはわかっているのですが、またこういった話を何度も聞

いて、坂祝町ではすでにそういった研修は行われているとは思いますが、成果はあるのかなと思いました。

教育長 コロナで、そういった研修もストップしていました。今はリモート等でもやっております。新しく研修主事というポストも配置されていますので、そこを中心にこれから校内研修が実施されていくものと思われま

原口教育委員 5月13日、渡辺猛之くんを励ます会に出席する機会をいただいたので参加させていただきました。茂木幹事長がみえて、講演をしておりました。ウクライナ問題のことも話されましたが、子育て少子化やデジタル化が今、変わるチャンスとって見えまして。子育て少子化に関して取り組みやすいところでお話されて、子育て支援がコロナの次の最重要課題ということも言われました。その中で、児童手当の所得の撤廃や給食の無償化、保険等の子どもに対する無償化を考えていると言われました。子どもの少子化のもともとの原因は婚姻にあると言われました。経済的理由もあって婚姻率も下がっていることも問題視されていました。男性の育児参加も随分言われていますが、それでも全体的には14%で、できれば2年後から3年後には80%以上を掲げたいと言っていました。私もそうですが、家に旦那さんがいて、お父さんがどういった育児の関わり方をするか、お父さんがわかっていないと、よくテレビでも言われていますが、結局母親の負担が増えるだけになってしまい、子どもが一人増えたという感覚になってしまうだけなので、坂祝町もパパママ教育でやっていますが、そういったことを取り上げていただけると、お父さんも育休でやらなければいけないことをわかってくるといいなと思いました。GXといわれるグリーントランスフォーメーションですが、これが人類と自然との共存とよばれ、行政では限界なので民間に頼りたいと言っていました。

古田教育委員 原口委員さんの話を聞いていて、私には2人娘がいて結婚もしていますが、その旦那の協力的なところには、本当に頭が下がります。そういったところは国会議員の方々は、わかっていて実感しているのかなとふと思いました。今の若いお父さんはよくやっただけだと感心しました。最近で一番印象的なのは、認定こども園の給食の問題です。4時間もトイレに行くのも我慢させたというのは明らかに間違いですが、あの報道をみていて思ったのは、本当に一生懸命、給食指導をしておられる先生もいると思うのですが、毎日の食の様子を見ながらその子に応じた好き嫌いを見極めて量を調節している先生もみえるので、そういった先生に対する攻撃が何らかの形ででてくるのではないかと強く思っています。4時間我慢させられた子どもはかわいそうですし、心の傷が残らないようにとは思いますが、私の考え方が古いのかもしれませんが、給食で出されたものをきちんと食べるといのはいろいろな意味があると思うし、ただ、食が細い子は必ずいますし、皆が同じ量を食べなければならぬとは思いませんが、先生のご負担が増えるわけですが考えていただいて、できるだけ全部食べたという感じが味わえるようなことをしてあげると、その子の幅が食だけではなくて広がる

可能性があると思います。今後、ひょっとしたら、現場で、あの先生は、給食指導に対して厳しすぎるというご意見が保護者から連絡がきたときに、何とか現実を捉えて盾にもなっていかなければと思いました。

兼松教育委員 私は5月1日に、交通指導に出かけました。孫がいるので学校までついていきましたが、子どもたちは黙々と歩きます。学校につくと、校長先生からおはようございますと言われるのですが、子どもの反応がなく、ひょっとしたら、3年間のコロナの期間で、できなかつたのかと思いました。校長先生に「黙々と子どもたちは歩いてきましたよ。」と伝えると、校長先生からは「よく話す分団と黙々と歩く分団があります。」と言っておられました。そういった影響は学校も感じていて大変だったなと思います。対話的で深い学びといいますが、本当に対話ができないような環境で、皆さんが頑張ってくれたのだろうなと思いました。私は中日新聞をとって見っていますが、この頃、新聞の質が変わってきたと思います。特集を組むようになりました。例えばロストチャイルドの中に学習とか給食がありました。少し見出しだけ読みます。「黙食解禁外せるかな」つまり、顔を見られるのが恥ずかしい、マスクを外せるかなということです。「何も食べていない。給食を食べた後に並ぶ生徒。」朝食を食べていない生徒の現実があるということ。「100か0か消えた好物」玉子アレルギーがあり、玉子はだめだが、加工品は大丈夫と学校に連絡した。4年生までは好物のババロアやアイスシュークリームを食べることはできたが、5年生では食べられなくなった。学校からは、食物アレルギーは命に関わることなので一律です。安全を優先しているとあった。「完食、消えぬ記憶」完食しないと好きなデザートが食べられない。食べるまで、更にデザートは最後、食べられなかった人はチョコレートケーキ1口だけ。この新聞記事を見て、そういった現実ありそうだなと思いました。学校は学校で頑張っているのですが、教育委員は町民感覚で、こういった感覚でものを見ていかないといけないと思いました。

金武教育委員 登校のとき、あまりおしゃべりはしないでというのは、コロナの前から言われていました。それは仲がいい子と並んで話すと歩く速度が遅くなったり、話に興奮して道路に飛び出したりする子もいるからといわれていました。私はおしゃべりして行った方がいいと思うのですが、そのように班長さんが下級生に指導しているのは見たことがあります。

原口教育委員 私自身が小学生の頃、食が細くて、お肉が飲み込めない子だったので、掃除が始まってもずっと後ろで噛んでいました。結構つらい思いをしました。

古田教育委員 ちょうどいいバランスを上手にお互いにとれるといいと思いますが難しいですね。

金武教育委員 今は、最初に給食を配られ、食べられない子は最初に戻す。食べたい子は、食べ終わったらお代わりができるができるスタイルになっていると思うので、一人だけの残って食べるというのはないと思うのですが、うちの子はデザートが好きなので、献立表を見て、今日はじゃんけんを頑張るぞと言っています。前ほど厳しいことはないと思います。

原口教育委員 私も、幼稚園で保育士をやっていた頃ですが、完食した達成感を子どもに味わわせたいというのがあります。幼稚園ごとの方針も違うでしょうが、初めに少し減らして、それでも食べられない子は、自分の名前の数だけ、8文字なら、8口だけ食べるようにして、少しでもお皿が減るようにして、お皿の下にちょっとしたイラストを載せて、それが見えるまで頑張ろうねと工夫して取り組んでいました。

教育長 僕たちが幼い時のことを言っても、時代が大きく変わっていますので、時代の変化に応じて指導支援をしていかなければいけないと思います。

日程第4 議事

(付議事件)

議案第22号 令和5年度一般会計補正予算(第3号)について

※教育課長、こども課長が資料に基づいて報告をする。

教育長 採決をとります。議案第22号について、承認することに異議はありませんでしょうか。

教育委員 異議なし。

教育長 異議なしと認めます。

議案第23号 坂祝小学校準要保護児童の認定について

※教育課主査が資料に基づいて報告をする。

(個人情報が含まれ、個人が特定されるため掲載を控えます)

(報告事件)

報告第16号 令和5年度坂祝町教育大綱と坂祝幼稚園・小中学校教育指導の方針と重点について

※教育課主幹が資料に基づいて報告をする。

報告第17号 坂祝幼稚園、坂祝中学校の校外学習届について

※教育課主幹が資料に基づいて報告をする。

報告第18号 令和5年度一般会計補正予算(第2号)について

※教育課長、こども課長が資料に基づいて報告をする。

報告第19号 坂祝町教育委員会後援名義の使用許可について

※教育課長が資料に基づいて報告をする。

日程第5 その他

○当面する教育関係諸行事について

○その他

日程第6 閉会

※教育長が閉会を宣言する。

閉会 午前10時30分